

## 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びに導く社会科授業の在り方  
～学校間を超えての協働的な学習を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

本単元は、学習指導要領第6学年の目標及び内容に基づいて設定したものである。

今の子ども達が成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変わることが予想され、予測困難な時代となるだろう。そんな不確実性の高い世界を生きていくために、学校教育は子ども達を、生涯にわたって学び続け、変わり続けられる自立的な学習者を育成することが重要になる。そのためには、子どもが主体的に学習に向かったり、他者と対話をしながら関わったりする授業をデザインすることが必要だと考えた。

### (2) 印教研社会科研究主題より

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習  
～自ら課題を見いだし、自分の考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本研究は、印教研研究主題を受けて設定している。副題にある「自ら課題を見いだし、自らの考えを実現できる児童」とは、グローバル化する世界における日本の役割について各種資料で調べ、まとめることで日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現する姿と考えた。児童が諸外国についての情報を集めたり、必要な情報を選んだりしながら、日本と外国の生活の同じ部分や異なる部分を結びつけて考えていくことで、主題に迫ることができるだろう。

### (3) 児童及び学校の実態（公津の杜小学校6年4組37名 豊住小学校6年1組10名）

公津の杜小学校は、成田市の南西部に位置し、酒々井町と隣接した飯仲の一部と公津の杜地区（1丁目から6丁目）から成り立っている。面積においても児童数においても公津の杜地区の新しい住宅地がほとんどを占めている。公津の杜地区は、京成電鉄公津の杜駅を中心に宅地開発が進み、大型商業店舗や各種商店が建ち並び、近代的な街並を形成している。

児童数は775名と規模の大きい学校である。住民は県内や関東近県からの移住者がほとんどで、児童の家庭環境は多様である。保護者の教育への関心は高く、学校の教育活動にも協力的である。

公津の杜小学校6年4組の児童は、学習したことを吸収する力が高く、与えられた課題に対しては、自ら進められる児童が多い。しかし、学習の計画を立てることから始め、他者と共に学んでいく経験については乏しく、活動に要する時間の見通し等をもつことは難しいという実態がある。

豊住小学校は、成田市の北西部に位置し、北は利根川、南は根木名川にはさまれ、大変広範囲にわたっている。土地利用は、大半が田畑は少ない。農村地域であるが、年々専業農家が減少している。また、地域の人口減少の流れを受け、児童数は40名と成田市で最も少ない学校となっている。令和2年度から小規模特認校に指定され、学区外から児童が入学できるようになった。小規模校は、児童相互の

人間関係が深まりやすく、学年を超えた交流が生まれやすい。しかし、少人数であるがため、多様な意見に触れる機会が少ない。また、長期にわたり同一のメンバーで生活することが多く、社会性が育てにくい。

豊住小学校6年1組の児童は、学習への意欲も高く、新しいことへも興味をもって取り組むことができる。また、指示されたことや規則を素直に守ろうとする児童が多い。学習面では、「答えが明確なもの」に関しては多くの児童が挙手し、発表をよく行う。一方で、「自分の考えを発表すること」に関しては、挙手する児童が固定化されてきている。ペアやグループ学習での話し合いでも、進んで意見を言う児童が固定化されており、話を聞いているだけの児童もいる。このような実態から、児童が主体的に話し合いを行い、互いの良さを生かせるような活動の場が必要であると感じる。

### 3 主題について

#### (1) 主体的な姿

主体的な姿を以下のように考えた。

学ぶことに興味や関心をもっている。

調べたい国とテーマを自己決定し、意欲的に調べている。

見通しをもつ。

単元計画や前時の学習の振り返りから、本時に自己のめあてを設定し、学習に取り組んでいる。

粘り強く取り組む。

めあてを達成するために、調べ方を考え、工夫して取り組んでいる。自分とは異なる友達の考えや意見を聞いて、よりよい考えや解決策、合意案を作ったり発見したりしようとしている。

自己の学習活動を振り返って次につなげる。

毎時、自分の学習を客観的に捉え、自己評価するとともに、学習の記録（振り返り）をする。

#### (2) 対話的な姿

対話的な姿を以下のように考えた。

子ども同士の協働や教師との対話を通じ、自己の考えを広げ深めている。

考えを広げている：他者の考えを知って、「こんな考えもあるのだな」と気付く状態。

考えを深めている：他者の考えを知ったり、様々な働きかけ（調べ方等）を知ったりして、自分のこれまでの考えを見直したり、確信を深めたり修正を図ったりする状態。

### 4 研究の目標

これからの不確実性の高い世界を見据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現が推進されている。本研究では、「日本とつながりの深い国々」の単元における授業の構想が、主体的・対話的に学習する力を伸ばすことができるのかを明らかにしていく。

## 5 単元の構想について

本研究では、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解すること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解することがねらいとなる。また、外国の人々の生活の様子と日本の文化や習慣などとの違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え表現させたい。

「新しい社会6 政治・国際編」(東京書籍)では、アメリカ、中国、韓国、サウジアラビアを事例として、人々の生活の様子を中心に教材を構成している。この4か国の中から、児童が自らの問題意識などに基づいて、調べる国を1か国選択する。選択した国が同じだった児童同士でグループを構成し、協働しながら学習を進めていく。構成するグループは公津の杜小と豊住小の児童で編成し、ジグソー学習を取り入れる。グループ間で交流を行い、自分が調べる国以外の知識を獲得したり、調べ方を学んだりできるようにする。単元の終盤には、これまで調べたことをまとめた発表を行う。

## 6 研究の仮説及び手立て

### 【仮説1】

ICTを活用しながら、児童自らが問いを設定し、調べていく学習過程を繰り返すことによって、自己調整する力が身に付き、主体的に学習することができるだろう。

### 【手立て①】 児童の興味・関心に基づいた学習活動

本実践では、日本とつながりの深い4か国の中から、児童一人一人が自らの興味・関心に基づいて1か国を選択して調べていく学習活動を展開していく。単元の1時間目には、それぞれの児童が調べた国のことについて発表するという単元のゴールを伝え、単元の全体像を把握できるようにする。また、一斉指導の形態による授業は最小限にし、児童自身の興味・関心に応じて、学習を深化させながら単元のゴールに向かって進めていく。毎時間の始めには、学習計画に沿っためあてを設定し、学習後の振り返りの時間も十分に確保する。ICTを活用することで、教師と児童で学習計画と振り返りを共有することができるので、それぞれの児童にあったカンファランスができる。それにより、児童は自己調整をしながら学習を進めることができ、本実践が目指す主体的に学習する姿に近づくと考える。

### 【手立て②】 ユニットシートの活用 (資料編P6)

ユニットシートとは、単元のゴールやスケジュール、自己評価の観点などが一覧できるシートである。毎時間の目標を達成しながら、単元のゴールに対する到達度を児童が認識できるような構成になっている。これにより、学習の軌道修正を図り、自己調整する力が身に付くと考えた。

### 【仮説2】

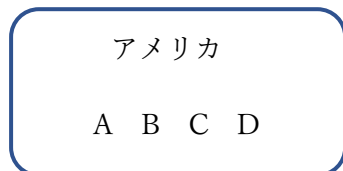
チームを組んで、協働して学習を進めていけば、自分の考えを見直したり、他者の新たな考えを知ったりすることができ、深い学びを生み出すことができるだろう。

## 【手立て①】ジグソー学習

深い学びを生み出すために、他者と協働的に学習を進めていくジグソー学習を行う。一人一人の調べたい国が決定したら、同じ国を選択した人同士で4人程度のグループを組む（ホームグループ）。

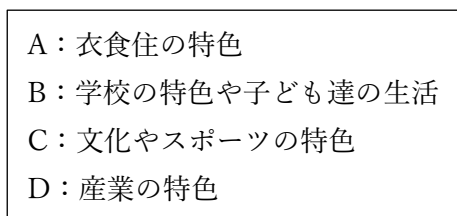
### （1）ホームグループ

ホームグループでは、まず調べるテーマを分担する。テーマはA～Dの4種類から選択する。



4人1チームでテーマを分担

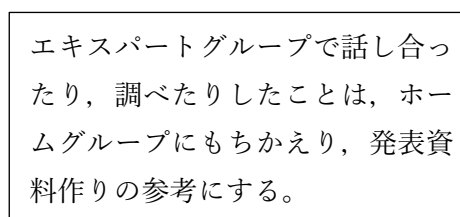
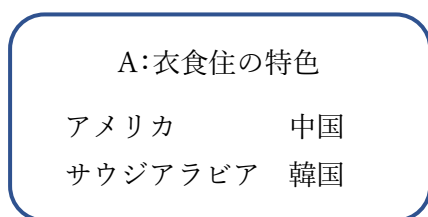
（公津の杜小：3名 豊住小：1名）



※上記のアメリカの例のように、その他の国についても同様にグループを組んでいく。

### （2）エキスパートグループ

エキスパートグループとは、同じテーマを選んだ人同士で組んだグループである。例えば、同じ衣食住を調べていても、国が違えば生活の様子は異なる。他国の情報を知ったり、自分のホームグループではしていない調べ方やまとめ方を知ったりすることで、学習内容・活動に深まりが出るだろうと考えた。



## 【手立て②】学校間を超えての協働的な学習

公津の杜小学校は児童数が750名を超える大規模校である。6学年は1クラスあたり37～38名が在籍し、クラス内で様々な人と交流しながら学習したり、クラスを超えて学年内で交流したり、多様な学習をすることができる好環境にある。一方で、豊住小学校は、様々な人と交流しながら学習することは極めて難しく、限られた小さなコミュニティーでの学習が続いてしまうのが現状である。しかし、一人一台端末を利用すれば、学校間を超えての協働的な学習を展開することができると考え、豊住小学校と連携し、リモートでの協働的な学習を取り入れる。そのため、手立て①におけるホームグループ及びエキスパートグループは、公津の杜小学校と豊住小学校合同でグループをつくり、学習を進めていく。学習する際は、ロイロノートを使用することで、資料や自分の考えをまとめたものを可視化することができ、聞き手の理解度も増すことができる。そうすることで、質問や意見も思いつきやすく、対話が成立しやすい。

## 7 実践研究

### (1) 単元名 「日本とつながりの深い国々」

#### (2) 単元の目標

- ・我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は、多様であることを理解することができる。
- ・スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解することができる。

(知識・技能)

- ・外国の生活に着目し、各種資料を使いながら調べることを通して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することができる。

(思考力・判断力・表現力等)

- ・主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に世界の人々と生きていくために大切なことなどを考えようとしている。

(学びに向かう力・人間性等)

#### (3) 指導計画（10時間扱い）

過程	時数	主な学習内容と活動
見 い だ す  (3)	1	○国際社会が抱える課題について資料を読み取ったり、経験をもとに話し合ったりすることを通して、平和な世界を実現する取り組みについて学習問題をつくる。 「わたしたちは、どのようにして、世界の人々と共に生き、平和な社会を築いていけばよいのだろうか。」
	2	○これまでの社会科の学習や自分たちの日頃の生活を振り返り、日本とつながりの深い国々について学習問題をつくり、調べる国を決定する。 「日本とつながりの深い国々の人々はどのような生活をしているのだろうか。」
	*教科書に掲載されている4か国の中から、調べたい国を児童一人一人が選択する。 →グループ編成（1グループ4人程度）	
	3	○日本とつながりの深い国々について、どのようなことを調べていくのか学習の計画を立てる。(ユニットシート) 「これから調べていくことについて、学習計画を立てよう。」

自分で取り組む (3)	4	○学習計画に沿って、個人・グループで日本とつながりの深い国について調べる。	学校間で連携しながら調べ学習を進める。	ジグソー学習
	5	「学習計画に沿って、調べ学習を進めよう。」		
	6	*調べる国と観点		
		調べる国		
		①アメリカ合衆国      ②中華人民共和国 ③大韓民国              ④サウジアラビア		
		調べる観点		
		A 衣食住の特色      B 学校の様子や子ども達の生活 C 文化やスポーツ      D 産業の特色		
		*調べ方の例		
		・教科書や資料集を用いて調べる。		
		・調べる国について書かれた本や新聞記事を集めて読む。		
		・インターネットで外務省やその国の観光局の公式サイトを調べる。		
		・教師が作成したデジタル資料集を利用して調べる。(資料編 P5)		
		*調べる上での留意事項		
		・毎時間の始めに計画を立て、活動に取り組む。		
		・調べてわかったことは、学習ノートやロイロノートにまとめる。		
		・調べてわかった事実と自分の考えを区別するように気を付ける。		
		・活動の終わりには、振り返りの時間を十分に取る。		
広げ深める (2)	7	○調べたことをスライドにまとめ、発表の資料を作成する。 「調べたことを、スライドにわかりやすくまとめよう。」		
	8	○スライドで、アメリカ合衆国・中華人民共和国・大韓民国・サウジアラビアについて発表し合う。 「調べたことについて、スライドを使って発表しよう。」		
まとめあげる (2)	9	○導入段階で提示した問いに戻り、国際交流について考える。 「世界の人々と共に生きていくために必要なことについて考えよう。」		
	10	○これまでの学習を振り返り、日本とつながりの深い国々の生活や文化などについて考えたことをまとめる。 「学習問題について調べてきたことや自分の考えをまとめよう。」		

※それぞれの児童が調べた国に対応した「評価テスト」を作成する。(資料編 P15～)

学校で一括購入したワークテストは、4か国について問う問題で構成されているため、1か国を選択して学習を進める本実践に適していないと考えた。

(4) 評価規準・評価基準

評価規準	日本と経済や文化、資源などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べることを通して、世界の人々とともに生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることや、世界平和を目指す上で日本が重要な役割を果たしていることを考えられるようにする。		
	A	B	C
知識・技能	我が国とつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、異なる文化を尊重し合うことが大切であることを理解することを通して、問題解決に関心を寄せている。	我が国とつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、異なる文化を尊重し合うことが大切であることを理解する。	我が国とつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、異なる文化を尊重し合うことが大切であることの理解が十分ではない。
思考力・判断力・表現力等	日本と各国の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割に目を向け、自分たちにできることを考えている。	日本と各国の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考えている。	日本と各国の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考えることが十分ではない。
学びに向かう力・人間性等	主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。学習したことを基に世界の人々と生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。	主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。学習したことを基に世界の人々と生きていくために大切なことなどを考えようとしている。	主体的に学習問題を追究・解決しようとしていない。学習したことを基に世界の人々と生きていくために大切なことなどを考えることが十分ではない。

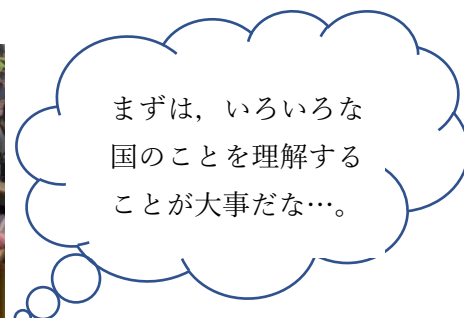
(抽出児童については資料編 P12～参照)

8 授業の様子

(1) 「見いだす」の課程

○オリンピックの話題から、オリンピックは平和な社会の実現を目指していることを知った。

しかし、世界にはまだまだ厳しい現実があることを知った。



○教科書に掲載されている4か国を紹介し、調べていく国を一人一人が決めた。



## (2) 「自分で取り組む」場面

○一人一台端末を活用し、調べ学習を進めた。



＜今日の振り返り＞  
調べたいことを、ピンポイントで調べ、ほしい画像を見つけることができました。今後は原稿を作ることにも視野に入れ、原稿に合う画像を厳選していきたいと思います。

自分の学習を客観的に捉え、次の学習につなげようとしている。

○ホームグループで自分の役割を確認し、協力しながら調べたり、個人で調べたりしていった。



グループのみんなのまとめ方がとても上手で参考にしたいと思いました。色使いが見やすい人が多くてすごと思いました。産業についてまとめていた人が「日本と比べて」ということが分かりやすく伝えてくれて分かりやすかったです。

他者のまとめ方を知って、新たな考えに気付いている。

○エキスパートグループでは、他グループの調べ方を知ったり、他国の知識を得たりする良い機会となった。



振り返り  
・同じテーマでも、調べ方などが違って参考になりました。次は調べたことをわかりやすく伝えられるように調べたことをまとめようと思います。

他者の考えを知って自分のこれまでの考えを見直している。

## (3) 広げ深める場面

○ロイロノートのテキストをつなぎ合わせ、発表資料となるスライド作りをし、発表した。

(発表資料は資料編 P7～参照)



・衣食住：衣服は、サウジアラビアに適した気候の服で、住まいは、砂漠を防ぐ作りになっているりと、サウジアラビアの衣食住は日本と全く違う。

調べた国のことを発表しよう

国	日本と似ている	日本とちがう	感想
アメリカ	アメリカは3月4月頃という季節と日本は同じです。	アメリカは3月4月頃という季節と日本は同じです。アメリカは3月4月頃という季節と日本は同じです。	日本とアメリカは同じ季節です。アメリカは3月4月頃という季節と日本は同じです。
中国	中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。	中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。	中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。中国は暑い季節です。
韓国	韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。	韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。	韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。韓国は暑い季節です。
サウジアラビア	サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。	サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。	サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。サウジアラビアは暑い季節です。

## (4) まとめあげる場面

○4か国の発表を聞き、日本との共通点や違う点について理解した上で、単元の導入段階での「平和な世界にしていくために私たちに何ができるのだろうか」に戻り、改めて考えた。



## 9 仮説の検証

### 【仮説1】

#### 手立て1 児童の興味・関心に基づいた学習活動

子ども達に調べたい国を選択させたことにより、自身の興味・関心に沿った学習となり、意欲をもって活動することができた。また、ユニットシートを活用したり、導入部分で本時の学習活動を教師が話したりすることで、見通しをもって活動することができていた。

教師との対話よりも、児童同士のコミュニケーションの中で、自己の役割を把握し学習を進めることができていた。本時の成果や次時にやるべきことを書く振り返りの時間を十分に確保したことは有効に働き、本時に児童がやるべきことを確認したり軌道修正ができるような気づきを促すカンファランスをしたりすることができた。

#### 手立て2 ユニットシートの活用

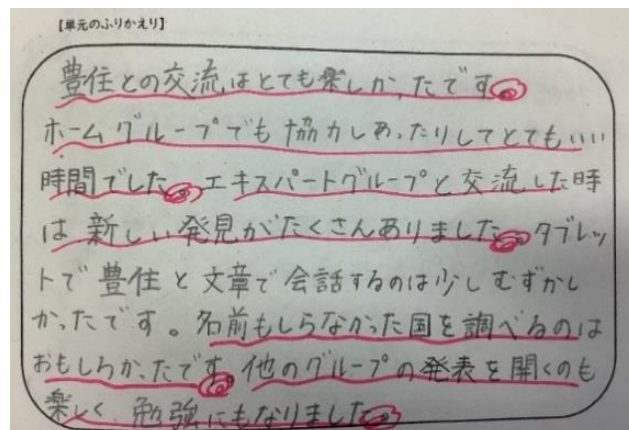
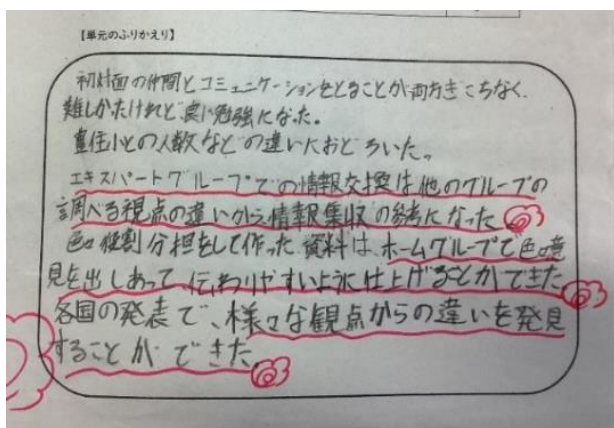
ユニットシートを活用することで、児童は見通しをもって学習を進めることができた。学習のゴールをイメージできることで、活動に要する時間を考え、自己調整しながら学習することができた。毎時間の終わりには、セルフチェックを行い、振り返りの記述につなげることができた。

### 【仮説2】

#### 手立て1 ジグソー学習

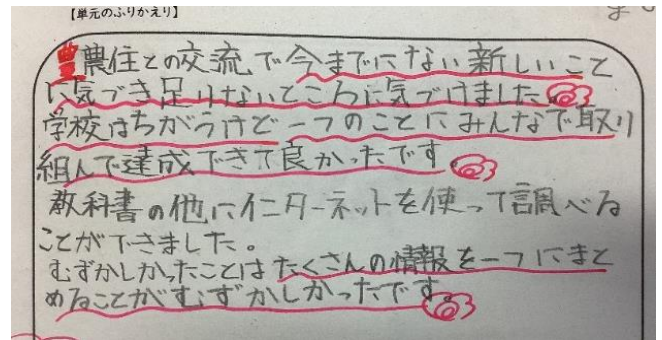
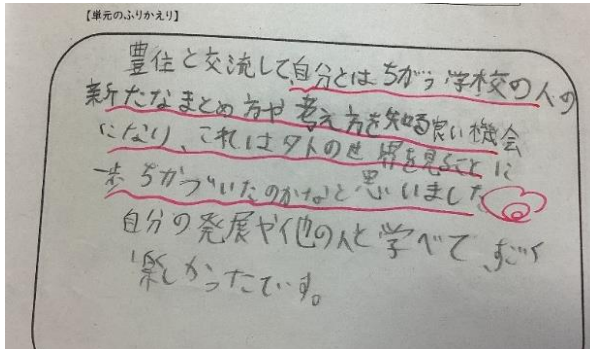
ホームグループでの話し合い(対面での話し合い・Google Meet・ロイロノートでの生徒間通信など)で児童同士の役割分担ができ、グループへの所属感をもって活動することができた。ホームグループで相談したり、軌道修正を図ったりしながら進めたことで、各自が役割を果たしながら学習することができた。Google Meetで会話をしたり、ロイロノートでの生徒間通信によるチャット機能を活用したりすることで、学校間での交流は十分に行うことができた。

エキスパートグループでの交流では、同じ内容を調べている他国の人との交流の中で、新たな発見をし、自らの学習に生かすことができていた。内容的な項目(〜〜を調べるとよいのか。〜〜の資料を使うとよいのか。)に加え、ICTの技術に関する項目(字の大きさやイラストの使い方がよい・強調の仕方がよい。)などさまざまな気づきがあった。学習後の振り返りにも、エキスパート学習における交流が効果的であったことが書かれていた。



## 手立て2 学校間を超えての協働的な学習

これまで同じコミュニティでの活動の場しかなかった児童にとっては、他校の児童との交流は効果的であったように思う。学習の深まり(新たな視点やアドバイスを受けての気づき)などが多くあった。また、コミュニケーション能力が向上し、初対面の人への接し方などを学習することができた。学習当初は緊張し硬かった表情も、学習が進むにつれ心理的な距離も縮まり学習の効果も上がったように感じる。



### 10 成果と課題

#### (1) 成果

- ・導入段階で自分が調べたい国とテーマを自己決定した。自分の関心に沿って学習をしていくので、単元終盤まで学習意欲が持続していた。また、ユニットシートにより単元のゴールが明確になっていたため、ゴールに向かってコツコツ進んでいく学習展開も学習意欲の持続の一助になった。
- ・学校間を超えてのジグソー学習をすることによって、自分に足りないところや今まで知らなかったことへの気づきが多く生まれた。一人で学習を進めるよりも他者と共に学習することで、学習への深まりが出た。
- ・【広げ深める】の学習段階で、もう一度単元の導入段階での問い「平和な世界にしていくために私たちに何ができるのだろうか」に戻り、改めて考えた。【自分で取り組む】の過程で、国によって様々な実態があることを知った児童は、日本との違いがあっても、互いの文化を尊重し合っていくことが大切だと気付くことができた。

#### (2) 課題

- ・Google Meetによるオンラインでの交流は、端末の機能上(狭い場所で多数の端末を起動すると雑音が多くなる)一つの教室で展開することが難しく、校内での場所の確保が必要となる。
- ・調べる時間では、インターネットでの調べ学習に特化してしまい、教科書に掲載されている学習内容の習得が不十分になってしまった。教科書で調べる時間、インターネットや本等で調べる時間を分けて設定するべきであった。
- ・今後は、小規模校同士での交流や、地域性の異なる学校同士による居住地域についての学習計画をし、各校の地域性を学び合える学習計画を立てていきたい。